

三月の空の下

小川未明

青空文庫

花はなの咲さく前まえには、とかく、寒さむかったり、暖あたかかったりして天候てんこうの定さだまらぬものです。その日ひも暮くれ方がたまで稲おだやかだったのが夜よるに入はいると、急きゆうに風かぜが出ではじめました。ちようど、悪寒おかんに襲おそわれた患者かんじやのように、常磐木ときわぎは、その黒くろい姿すがたを暗やみの中で、しきりに身震みぶるいしていました。

A 院長エイんちようは、居間いまで、これから一杯ぱいやろうと思おもっていたのです。そこへはばかりような小ちいさい聲あしおと音がして、取り次とつぎの女中じよちゆうけんかんごふ兼看護婦はいが入はいってきて、「患者かんじやがみえましたが。」と、告つげました。

「だれだ？ 初診しよしんのものか。」と、院長いんちようは、目めを光ひからしました。

「はい、はじめての方かたで、よほどお悪わるいようなのでございます。」

まだ年としの若わかい彼女かのじよは、こんなものを院長いんちように取り次とついだのは悪わるいとは思おもったけれど、それよりも、目めにうつる哀あわれな男おとこの姿すがたのほうに、いつそう強つよく心を動うごかしたのです。けれど、院長いんちようは容易よういに座ざを立たち上あがろうとしなかった。

「そんなに悪わるいのに、ここへやってきたのか。」

「はい。」

院長^{いんちよう}は、きたときいては、捨て^すてもおけなかつたのでした。どんな身分^{みぶん}の患者^{かんじや}であつて、またどこが悪い^{わる}のか、それを知^しりたいという職業意識^{しよくぎよういしき}も起^おこつて、

「いま、ゆくから。」と、静^{しず}かに、答^{こた}えて、苦^{にが}い顔^{かお}つきをしな^おがら、居間^{いま}を出^でました。
控^{ひか}え室^{しつ}をのぞくと、乞食^{こじき}かと思^{おも}われたようなよぼよぼの老人^{ろうじん}が、ふろしき包^{づつ}みをわきに置^おいてうずくまつていました。

院長^{いんちよう}は、その老人^{ろうじん}と、取^とり次^ついだ看護婦^{かんごふ}とを鋭^{すど}く一瞥^{いちべつ}してからいかにも、こんなものを……ばかなやつだといわぬばかりに、

「みてもらいたいというのは、この方^{かた}かね。」と、ききました。

「さよう、私^{わたくし}でございます。遠^{とお}いところ、やつと歩^{ある}いてまいりました。」と、老人^{ろうじん}はとぎれとぎれに答^{こた}えました。

「遠^{とお}いところ？　なんで、もつと近^{きんじよ}所の医^い者^{しゃ}にかからなかつたんだね。」

「だめです、いいお医^い者^{しゃ}さんがありません。」と、老人^{ろうじん}は頭^{あたま}を左^さ右^{ゆう}に揺^ゆすりしました。

（そうだろうとも、だれが、こんなものを見^みてやるものだ。このばかな女^{おんな}でもなければ、一^{ひと}目^め見^みて追^おい歸^{かえ}すにちがいない。いつたい、医^い者^{しゃ}というものをなんと心得^{こころえ}ているのだらう。）

「おじいさん、せっかくだが、私は、これから急病人の迎えを受けているので、出
かけなければならぬのだ。だからすぐみてあげることができない。どうか、よそへいっ
てもらいたい。」

院長いんちようは、そばに、まごまごしている、看護婦かんごふの顔かおをにらんで、奥おくへさっさとはいっ
てしまいました。

「じゃ、どうしてもみてくださらんのか。」と、老人ろうじんは、つぶやきました。

「お氣きの毒どくですけれど、先生せんせいはたいへんお忙いそがしいので、みられんとおっしゃいますから、
よそのお医者いしやさまへいつてくださいまし。」と、看護婦かんごふは、そういいました。

「ははあ、よそのものはみても、私わたしをばみられないとおっしゃるのだな。どうせ、この老お
耄いぼれはくたばるのだからいいけれど、そうした道理どうりというものはないはずじゃ。もう私わたしは
歩あるけないが、どこか近所きんじよに、お医者いしやさまはありますか。」と、老人ろうじんは、やつと小ちい
な荷物にもつをせおつてから、ききました。

「じき、すこしゆくとにぎやかな町まちになります。そこには、幾軒いくけんもお医者いしやさまがありま
す。」

少女しょうじよは、暗い外くらそとの方ほうを指さして、町まちへ出る方ほう向こうをおじいさんに教おしえました。ところ

どころに点いている街燈の光が見えるだけで、あとは風の音が聞こえるばかりでした。ちやうど、その時分、B 医師は、暗い路を考えながら下を向いて歩いてきました。彼は、いま往診した、哀れな子供のことに、さまざまのことを思っていたのです。

その家は貧しくて、なぜから肺炎を併発したのに手当ても十分することができなかつた。小さな火鉢にわずかばかりの炭をたいたのでは、湯気を立てることすら不十分で、もとより室を暖めるだけの力はなかつた。しかし、炭をたくさん買うだけの資力のないものはどうしたらいいか、それよりしかたはないのだ。近所に、宏荘な住宅はそびえている。それらの内部には、独立した子供部屋があり、またどの室にも暖房装置は行き届いているであろう。そこに生まれ育つた子供と、あの貧しい家に病んでねている子供とどこに、かわいらしい子供ということに変わりがあるか。しかし、その境遇はこつとも異なっているのだ。私は、あの哀れな子供を助けなければならない。B 医師は、夕方、自分を呼びにきた、子供の母親の、おどおどした目つきと、心配いそな青ざめた顔とを思いあわせたのです。

「あんなになるまで、医者にかけないという法はないのだが、もう手後れであるかもしれない。」

悲壮な気持ちで、門を入ろうとすると、内部からがやがや人声がきこえました。

一足前、近所の人たちが、倒れている老人を連れてきたのです。

B医師は、すぐに老人に注射を打ちました。

「気がついた。おじいさん泣かんでいい。ここは医者の家だから、安心するがいい。」
と、顔をつけるようにして、B医師は、燈火の消えかかろうとするような老人をなぐさめました。

「あんたは、お医者さまか。」と、老人は、かすかに目を開いてB医師を見て、たずねました。

「そうです、だから、安心なさるがいい。」と、答えてB医師は、自ら老人を抱えて、診察室のベッドの上に横たえて、やわらかなふとんをかけてやりました。

「先生、この人は、助かりましょうか。」と、老人をつれてきた近所の人たちが、ききました。

「わかりません。なにしろ極度に疲れていますから。私は、できるだけの手当てをいたしますが……。」と、B医師は答えました。

その夜、老人は、最後にしんせつな介抱を受けながら死んでゆきました。すこしば

かり前、かたわらにあつた小さな荷物を指しながら、訴えるように、うなずいて見せたのでした。

夜明け方になつて、ついに雨となつたのであります。B医師は、老人が身から離さなかつた荷物を開けてみました。紙箱の中には、すでに芽を出しかけた、いくつかのすいせんの球根がはいっていました。また、古びた貯金帳といつしよに、なにか書いたものがほかから出てきました。それを見ると、

「私は、親もなければ、兄弟もない一人ぼっちで暮らしてきた。私の一生は、けつして楽なものではなかつた。人のやさしみというものをしみじみと味わわなかつた私は、せめて死の際だけなりと、医者にかかつてしんせつにしてもらいたいと思つて、苦しい中から、これだけの貯金をしたのである。どこで私は死ぬかしないが、おそらく、しんせつな医者を探しあてて、その人の手にかかつて死にたいと思つてゐる。この金で死後の始末をしてもらい、残りは、どうか自分と同じような、不幸な孤独な人のために費つてもらいたい。」

こういうようなことが書いてありました。終生、独身で過ごした、B医師はバラツク式であつたが、有志の助力によつて、慈善病院を建てたのは、それから以後の

ことであります。もちろん、老人の志も無とならなかつたばかりか、B医師は、老人の好きだつたらしいすいせんを病院の庭に植えたのであります。

しかし、A病院は、いまも繁栄しているけれど、慈善病院は、B医師の死後、これを継ぐ人がなかつたために滅びてしまいました。その建物も、いつしか取り払われて、跡は空地となつてしまつたけれど、毎年三月になると、すいせんの根だけは残つていて、青空の下に、黄色い炎の燃えるような花を開きました。そして、この人の心に染まるような花の香気は、またなんともいえぬ悲しみを含んでいるのです。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

初出：「民政」

1934（昭和9）年3月

※表題は底本では、「三一月《がつ》の空《そら》の下《した》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔あびす

2012年5月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

三月の空の下

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>